

車両の安全性向上

車両の安全対策

▶ 運転士異常時列車停止装置

運転中の運転士に異常が発生し、運転ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキを作動する装置を全列車に設置しています。

また、車掌が運転状況に異常を感じた時に扱う非常ブレーキスイッチも設置しています。



運転士異常時列車停止装置

▶ 列車運転状況記録装置

事故・トラブルが発生した場合に、その原因究明や再発防止策の立案に役立てるために、列車の速度や位置、時刻、運転士のハンドル操作状況、ATSの動作状況などを記録する装置を全列車に設置しています。

▶ 連結面間転落防止装置

乗車時にお客さまが誤って車両の連結面間に転落する事故を防止するための装置を京阪線全車両に設置しています。

なお、他社で発生した事故を踏まえ、先頭車同士の連結部にも対応する装置を設置しています。



連結面間転落防止装置

▶ ホーム検知装置

扉操作誤りによる転落事故を防止するため、京阪線3000・10000・13000系、大津線600・700形、および鋼索線車両にホーム検知装置を設置しており、大津線800系についても順次施工中です。この機能を使用すると、ホームがない場所で扉が開けられない仕組みになっています。



ホーム検知装置

より安全快適な車両を目指して

▶ 新型車両13000系の導入

安全性の向上やバリアフリー対応、環境への配慮に主眼をおいて開発した13000系車両を、平成26年度末時点で38両導入しています。オフセット衝突(車体前方の一部のみに負荷が加わるような衝突)対策など車体強度を向上させたほか、急ブレーキ時の事故防止策を施しました。また、車いすスペースや液晶式車内案内表示器などを設置し、荷棚の高さを低くするとともに、乗降口の扉端部と足元などにオレンジ色のラインを設けるなど、バリアフリー対応を充実しました。平成26年に導入した車両には、車内照明や前部標識灯(ヘッドライト)にLEDを採用し、さらなる省エネルギー化を図りました。



13000系



▶ 6000系車両のリニューアル

平成25年度からバリアフリー対応やインテリアのグレードアップ、停車駅案内、ニュース・天気予報情報提供によるサービス向上などを目的に、6000系車両のリニューアル工事を進めています。

あわせて、老朽化した制御装置などの機器を改修することで、故障に対する予防保全を図っています。



リニューアル後の6000系



平成27年度 安全重点施策の目標

車両の安全性向上

平成28年度の導入を目指し、13000系の整備(7両×2編成、4両×1編成)をさらに進めます。

また、引き続き6000系のリニューアルを行います。